

ラブライブ！命を燃や
す者達！

火野ミライ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

廃校を阻止する為に日夜奮闘する少女達。そんな日常が始まる少し前【アイコン】と呼ばれるものを手にする。アイコンを狙い、彼女達に迫る怪物【眼魔】

彼女達の夢と活動を支える一人の転生者『深見リュウジ』

今一度前世の妹と生活をする為、15個のアイコンを集めるため【仮面ライダースペースクター】として戦いに挑む！

時を同じくして謎の少女が【仮面ライダーダークゴースト】となり、リュウジと同じく15個のアイコンを求める…

願いを叶える為の物語が今、開演する！

目次

- 1 嚙矢(こうし)！静かな始まり！

嚙矢（こうし）！ 静かな始まり！

夜空の星々の輝きが人口の光によつて遮られる現代。そんな日本首都においても月は太陽の恩恵を受け、夜空に輝く。たいていの人が眠る夜の街だが、コンビニなど夜勤に努める者たちや夜更かしをする者もいる町の一角。一組の男女が人通りの少ない道を歩いていった。

男性の方はギリギリ成人しているぐらいの容姿と体格であり、両手をズボンのポケットに入れた歩みを続ける。そんな男性の後を付いて行くのは黒いフードを深く被った少女。

少女の方は歩きなれて無いか、辺りをキョロキョロと辺りを見渡しながらも前を歩く男性を追いかける。そんな少女の様子を気にも留めず目的地向けて進む男性。昼間でも異常な光景のそれは、月明りしか届かない道を歩運でいる事もあり、第3者が目撃すれば通報まっしぐらだろう。

「……いた」

突然、少女が歩みを止め視線を一点に集中する。少女が小さく呟いた言葉で初めて表情を変化させた男性が少女が見つめる場所に視線を向けるが、そこには只々道が広がっ

ており、多少ゴミが散らかっているだけだった。

「ホントにいるんだ…」

何もいない道に震える声を絞り出す少女。そんな少女の心情を示すかのように冷たい風が吹き、二人の髪を靡かせる。気温のせいかな、もしくは少女に見えているナニカに對する恐怖せいかな、少女の体はかすかに震えており、そんな少女對して心配の声一つかける事無く失望に近い視線を向ける男性。

「大丈夫」

そんな男性の視線を知ってか、軽く深呼吸してから自身を落ち着かせる意味を込めて
呟く。

微かに震えるを抑え、腰回りに手をかざす。するとオレンジの炎を共に単眼の怪物の
思わせる特殊なベルトが出現。続いて懐から取り出した黒い手のひらサイズの道具、一
見眼球にも見えるそのスイッチを押し、いつの間にか展開していたベルトにセット。

その瞬間少女の姿は消える。つかの間の静寂が辺りを支配したかと思えば、コンク
リート壁に何かで斬られたかのような傷跡が突然出現する。そこから不可思議な現象
が次々と起こるが、男性は意に介せず只々その場で立ち尽くす。

その眼差しは何かを選別するような…いや、期待外れな不良品を見るかのような何処
までも冷たく残忍な瞳。自身の周囲で舞うゴミ袋など意に介さず達観する彼を余所に

突然、火の手が上がりゴミを燃やす。燃え盛る炎の中心地点には、先程消えた少女が膝に手を乗せた状態で現れた。

「はあ……はあ……」

ゆつくりと呼吸するその手には黒を基調とし銀色の模様が入った両刃剣が握られている。

「ふん！ 下の下だな」

「初陣にしては上出来じゃないですか……」

周囲の悲惨な状況を見て少女を責めるように呟く男性。その言葉にムツスとしながらも反省混じりの反論を口にする少女。

「俺の目的の為に、早急に強くなれ。とりあえずは今日中に1個は手に入れる」

淡々と作業の如く少女にかけられた言葉。その発言を聞き少女はなにも発しないが、炎に照らされた口元では苦笑いの様な笑みを浮かべていた。

「それがマスターの命令オーダーなら頑張りますけど、期待しないでくださいね」

少女の答えに満足したのか男性は来た道を振り返り、闇の中に消えていく。その背中を見守り、その場で回転切り。剣の風圧で火を消したあと、少女は幽霊の如く消えていた。